

## 編集後記

二〇二一年度もコロナ禍で揺れた一年であった。昨年度に続いて、今年度も沖縄に行くことはできなかった。学内での開講ではなかったが、生涯学習講座『知りたいっちゃ沖縄 行きたいっちゃ沖縄』を五回にわたって開講できたことはせめてもの救いであったかもしれない。

とはいえ、沖縄とのコミュニケーションがまったく絶たれたわけではもちろんなく、旧知の山里純一先生（名桜大学教授）とは、メールではあるが、何度かやりとりをした。内容はコロナ禍による祭祀儀礼の中止の報告など、必ずしも明るいものではなかったが、そのような状況の中でも、山里先生からは本誌への御投稿をいただいた。まことに有難いことである。ぜひ御一読を賜りたい。

はたして、このような状況がいつまで続くのか、まったく予断を許さないが、トンネルには必ず出口があることを信じて、歩みを止めないようしたい。

（文責 今林直樹）